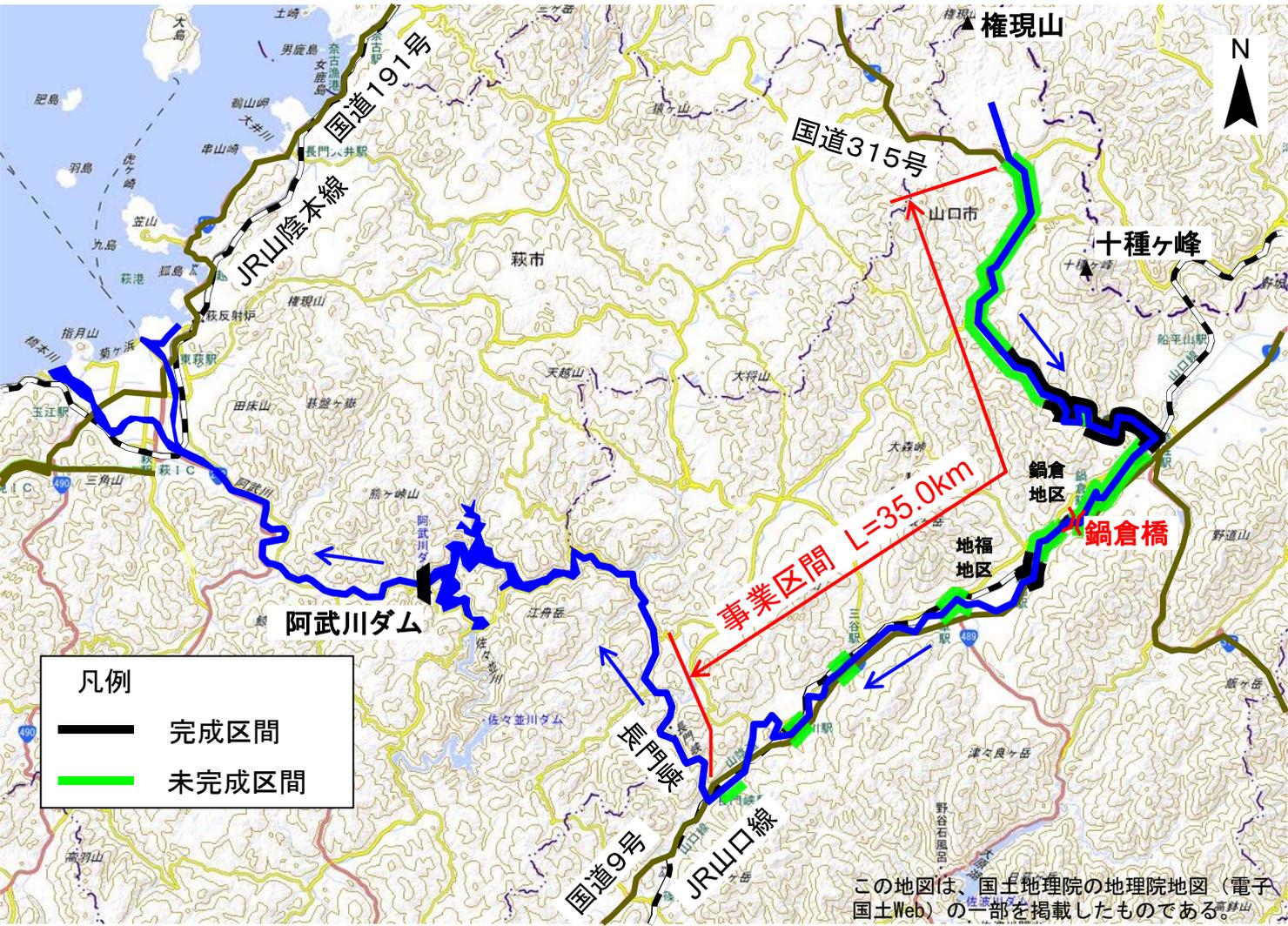


再評価項目調査

再評価実施要件		● 事業採択後 (10 年) ○ 再評価後 (年) ○ その他 ()					
1 事業 概要	事業名	あぶがわ 阿武川 広域河川改修事業					
	事業場所	あつ 山口市阿東 地内					
	事業主体	山口県					
	事業期間	《前回評価平成 25 年時》 平成 25 年度 ~ 令和 24 年度 《令和 24 年度》 (西暦 2013 年度 ~ 西暦 2042 年度 《西暦 2042 年度》)					
	総事業費 (内用地補償費)	《 8,220 百万円》 8,220 百万円 (250 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	4,234 百万円 (129 百万円)	進捗率 (用地補償費)	52 % (52 %)	
	事業目的	あぶがわ 阿武川は、山口市あねかみ 権現山(標高653m)を源とし、徳佐盆地を流れ長門峡、阿武川ダムを経た後、萩市街地のある河口部で三角州を作り日本海に注ぐ流域面積694.8km ² 、流路延長82kmの二級河川である。下流域では国道191号、JR山陰本線、上流域では国道9号、JR山口線等の主要な交通網が整備されている。 本事業区間は平成25年7月豪雨により甚大な浸水被害が発生した上流域(阿東地域)において河川改修を実施するものである。					
	事業内容	L=35,000m (河道掘削工、築堤工、護岸工、橋梁工) 洪水対策の整備規模 年超過確率1/10					
事業効果	年超過確率1/10の洪水時における浸水被害防止効果 浸水面積 287ha → 0ha 被害額 3,986百万円 → 0百万円 平成25年7月豪雨の洪水時における浸水被害防止効果 浸水戸数 83戸 → 0戸						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	新規採択時に比べ、人口や世帯数は減少しているものの、平成25年に甚大な浸水被害を受けていることから、再度災害の防止のため、引き続き治水対策を進めていく必要がある。 【状況変化(国勢調査)】 《山口市阿東》 ○人口 : 0.74倍 (4,766/6,466人) <R2/H22> ○世帯数 : 0.83倍 (2,189/2,612世帯) <R2/H22> 《参考:県全体》 ○人口 : 0.92倍 (1,342/1,451千人) <R2/H22> ○世帯数 : 1.00倍 (599/597千世帯) <R2/H22>			中項目評価	大項目評価
		関係市町及び地元の意向	当該事業は、自治会、水利権者等の地元関係者や学識経験者等により構成する川づくり検討委員会です承されている。また、これまでの浸水被害の経験から、地元自治体である山口市や地元住民からの被害軽減に対する要望は強い。			中項目評価	大項目評価

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前回 (基準年:H25)</th> <th colspan="2">今回(再評価・再々評価) (基準年:R4)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">便益(B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>269</td> <td>479</td> <td>436</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>192</td> <td>342</td> <td>309</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>9,084</td> <td>16,155</td> <td>14,700</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>83</td> <td>147</td> <td>83</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>総便益</td> <td>9,628</td> <td>17,122</td> <td>15,528</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用(C)</td> <td>①事業費</td> <td>6,425</td> <td>7,877</td> <td>2,521</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>752</td> <td>879</td> <td>286</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>7,177</td> <td>8,756</td> <td>2,807</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.3</td> <td>2.0</td> <td>5.5</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>○根拠マニュアル 治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月 国土交通省水管理・国土保全局</p> <p>○各便益の説明</p> <p>①一般資産被害軽減便益：整備により軽減される家屋、事務所、農漁家の資産被害額</p> <p>②農作物被害軽減便益：整備により軽減される農作物被害額</p> <p>③公共土木施設等被害軽減便益：整備により軽減される公共土木施設等(道路、農地、農業用施設等)の被害額</p> <p>④その他の便益：施設の残存価値、整備により軽減される営業活動停止損失および応急対応にかかる費用</p>	区分	主な項目	前回 (基準年:H25)	今回(再評価・再々評価) (基準年:R4)		備考	全体事業	全体事業	残事業	便益(B)	①一般資産被害軽減便益	269	479	436		②農作物被害軽減便益	192	342	309		③公共土木施設等被害軽減便益	9,084	16,155	14,700		④その他の便益	83	147	83			総便益	9,628	17,122	15,528		費用(C)	①事業費	6,425	7,877	2,521		②維持管理費	752	879	286		総費用	7,177	8,756	2,807			費用便益比(B/C)	1.3	2.0	5.5		<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">B</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">C</td></tr> </table>	A	B	C
	区分	主な項目	前回 (基準年:H25)			今回(再評価・再々評価) (基準年:R4)		備考																																																									
			全体事業	全体事業	残事業																																																												
	便益(B)	①一般資産被害軽減便益	269	479	436																																																												
②農作物被害軽減便益		192	342	309																																																													
③公共土木施設等被害軽減便益		9,084	16,155	14,700																																																													
④その他の便益		83	147	83																																																													
	総便益	9,628	17,122	15,528																																																													
費用(C)	①事業費	6,425	7,877	2,521																																																													
	②維持管理費	752	879	286																																																													
	総費用	7,177	8,756	2,807																																																													
	費用便益比(B/C)	1.3	2.0	5.5																																																													
A																																																																	
B																																																																	
C																																																																	
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>平成25年7月に甚大な浸水被害を受けた、特に治水安全度が低い区間について優先的に整備を実施することとし、現在、地福地区の護岸工、鍋倉地区の護岸工、橋梁工等を実施しており、洪水に対する防護機能の向上を図っている。今後も築堤工、護岸工、橋梁工、河道掘削工を引き続き実施し、浸水被害の軽減に努める。</p> <p>【事業費の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p> <p>【事業期間の変化】 有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/></p>	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr><td style="text-align: center;">A</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">B</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">C</td></tr> </table>	A	B	C																																																											
	A																																																																
	B																																																																
C																																																																	
(4) コスト縮減等の可能性	コスト縮減	工事用道路として使用する土砂を仮置きし再利用するなど、コスト縮減を図る。	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a b</td> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	A																																																										
	中項目 評価	大項目 評価																																																															
a b	A																																																																
代替案	代替案として「遊水地案」などが考えられるが、経済性等の観点から、現計画の「河川改修案」は妥当である。	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a b</td> <td style="text-align: center;">B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a b	B ・ C																																																											
中項目 評価	大項目 評価																																																																
a b	B ・ C																																																																
3 環境	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 低騒音・低振動の建設機械を使用する。 河川内工事の際に汚濁防止膜等を設置する。 河道掘削については、現況河床の瀬や淵をなるべく残すこととし、護岸については、動植物の多様な生息・生育環境に配慮した構造とする。 																																																															
4 対応方針	総合評価	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し継続 <input type="radio"/> 中止																																																															
	評価理由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																															
	備考																																																																

事業区間 (鍋倉橋下流)



凡例

- 完成区間
- 未完成区間

標準断面図 (現在工事箇所付近)



過去の浸水状況 (H25. 7) 鍋倉付近

